

# ARATA FULL THROTTLE

# 最速理論

Fastest Theory

エリアで最速・最短に上達するために覚える技術



講師：新辰明  
DLIVE フィッシングパーツ  
代表兼チーフデザイナー。カ  
スタムハンドル「ウェーブ」  
の生みの親。トーナメントク  
ランク「ハイサイド」発売中！



## Theory2: クランクベイトの道具とアプローチ

ルアーのポテンシャルで釣るイメージが強いクランクの釣りだが、アングラー側からのアプローチ次第ではもっと高いポテンシャルを発揮した釣りができるようになる。今回はクランクの釣りにおいて、道具を正しく使うための基礎知識とアプローチ方法について学ぶ。

# Hypothesis



↑新さんがこの日にチョイスしたルアーは、パープル、ザンム 30LL、ハイサイド。まずはパープルでトップのリアクションで魚の反応を見てから、表層に特化したクラंकであるザンム 30LL を使って表層を細かく刻んでいく作戦だ。最終的にはハイサイドのポテンシャルを生かした釣りになる？



最速で釣るための  
**仮説**

今回の釣りは、都市近郊型管理釣り場として不動の人気を誇る朝霞ガーデン。人気が故に、人為的なプレッシャーも高いエリアだ。  
「今見た感じ、この時期のメインとなる表層でも、ちよつと沈んでいる魚の方が動きがいいですね。セオリー通り表層からチエックしていきますが、こういうときは動きのいい魚が居るレンジでしか釣れないことが多いので、表層でも30cm



↑クリアポンドでは、まずは魚が動いているレンジを観察する。釣り始めてからも魚の動きを見て狙うレンジを判断することがあるので、常に意識しておく。

以内、50cm以内の中で、さらに細かく刻んでいかないと釣れないでしょう。水面でナブラが立つくらい活性が高ければ、普通の倍くらいスピードで巻いても喰ってきます。朝霞ガーデンのような釣り場では水の動きがカギになります。夏場、冬場でインレット、アウトレットもキーワードになりますから、水の動きがある方がいいのか、ない方がいいのかも考えて釣り座を選ぶ必要がありますね。

他にも、光の当たる場所がいいのか日陰でローライトになっている場所がいいのかといったファクターも考えて投げましょう」

## 検証のための知識①

# クラッキングには どんなハンドルが向いている？

新さんはハンドルのデザイナーでもある。クラंकに向いたハンドルについて教えてもらおう。

「DLIVEで発売しているハンドルにはシングルとダブルがあります。クラंकに向いているのはダブルハンドルですね。シングルは比較的スピードを変える表層のマイクロスプーンの釣りなどに使います。

ダブルハンドルはノブのピッチが70mm(65mm)と80mm(75mm)のふたつがありますが、クラंकのスローリトリープに向いているのはショートピッチの70mmですね。なぜかという、短い方が手首だけで巻けるので、巻きが安定するからです。では80mmはどういう釣りに向いて

いるかというと、ピッチが長い分巻きにトルクがあるので、例えばロングキャストで強い巻きアワセが必要な場合でも、強いストロークでアワセられます。クラंकはもろんですが、スプーンの釣りでもこれは有効です」

なるほど、シングルとダブル、そしてピッチの差にはそういう違いがあるんですね。

「クラंकはとにかく一定リトリープが大切なルアーなので、シングルでやっている人は、ダブルを使ってみて欲しいですね。特に大会やハイプレッシャーなときには、スローや超スローで巻かなければならない場面が多いので重宝しますよ！」



↑見た目を楽しむカスタムパーツとしてはもちろん、高い実用性を伴ったDLIVEハンドル。用途によってシングル(左)とダブル(右)を使い分けたい。



↑樹脂製ノブを採用したWAVEハンドル。ノブ上に独自のパターンを採用しているので、巻きアワセするときにもグリップが効いて滑りにくい。デザインも男心をくすぐる作りになっているが、樹脂ならではの軽さも魅力である。

↑70mmと80mmのピッチの違い。わずかな差に見えるかもしれないが実際に巻いてみると大きな違いがある。クラंक用ならまずは70mmから使ってみよう。



## クラंकには アイチェーン が必須!

スプーンと違い、プラグ類に存在するのがラインを結ぶ「アイ」。どんなクラंकでも、パッケージから出したら必ず軽く泳がせて、真っ直ぐ泳ぐようにアイを調整してから使おう。通常のスピードでは問題なくても、巻き始めに早巻きして潜行させるときにルアーが横に逃げてしまうと、潜行力がロスが出てしまうからだ。調整はルアーを泳がせて、曲がっていく方向と逆側に曲げてあげればよい。

# クラランクの浮力と巻きスピードの関係を理解する！

クラランクの巻きスピードを決定づけるのは、リップの長さだけだと思っている人はいないだろうか？

「そのクラランクの最適な巻きスピードを決定付けるのは、リップの大きいDRタイプだからゆっくり、小さいリップのSRタイプだから速くではなく、そのルアーの持つ浮力が大きく関係します。」

狙うレンジを一定にキープしたい場合、浮力が低いと必然的に巻きスピードはスローになりますし、逆に

浮力が高いと早く巻かないと一定レンジをキープできません。

ロッドポジションの違いも、狙うレンジに影響します。浮力が弱いルアーをロッドを下げて巻いているとどんどん潜ってしまいますよね。そういうルアーで表層を引きたいときはどうするかというと、ロッドを立ててゆっくりデッドスローで引けばいいんです。

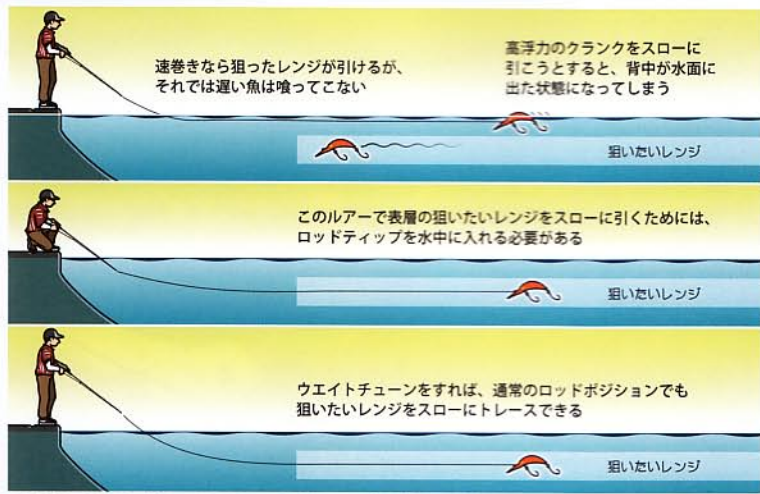
また、本来ある程度のハイピッチで引かなければならないハイフロー

トのルアーをスローに引くと、ずっと背中が出た状態になってしまいますよね。こういうルアーはニーリングをしてもいいですが、ウエイトを貼って調整すると、普通のポジションで引いてきてもちょうど良いレンジが狙えるようになります。」

そういうえば新さんが開発していたハイサイドが発売になりましたね。「ハイサイドMRは浮力がかなり低いクラランクです。スローやデッドスローで引く場面が多い大会やハイプレッシャーなエリアでも使いやすいなっています」

ハイサイドの特筆すべきはレスポンスの良さ！スローでもありえないくらいキビキビ動くので、他のクラランクでは攻略しきれない

場面で大活躍してくれそうだ！



↑浮力の高すぎるクラランクは、ウエイトシールを貼って調整すると狙ったレンジが引きやすくなる。逆に浮力の低いクラランクは、リングサイズを下げてと浮力を少し高められる。

↑クラランクのアワセはロッドポジションが高いときにはロッドの力でほぼオートマチックに掛けるのが理想的だが、ロッドを水平近くに構えたり、ロッドポジションが低い場合には、状況に合わせて適宜上下へロッドでアワセを入れるとよい。



**ハイサイドMR**  
全15色 1,300円+税  
問合せ: DLIVE  
<http://www.dlive-f.jp/>

↑パッケージもかなり凝った作りのハイサイド。ハイプレッシャー向けというコンセプト通り、タフな朝霞でもその効果は絶大！ボトムノックがしやすいセミスクウェアリップを採用しているのもポイントだ。SRやDRの発売も今から待ち遠しい！

# 泳層によってロッドポジションを変える！

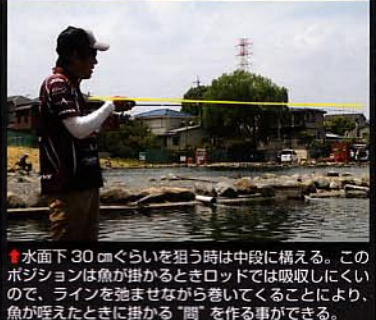
新さんがハイサイドを使うときのロッドポジションについて解説して

もらったので、これを参考に細かいレンジを狙い分けてみよう。

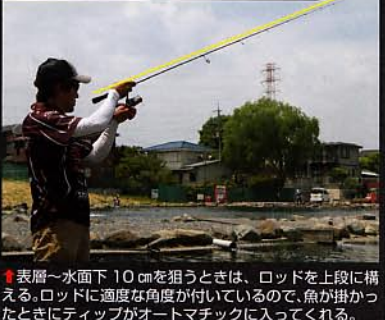
## 立って行うポジショニング



↑水深50cmを狙うときは、ロッドを下段に構える。クラランクは基本座って釣るが、クリアボンドでは立つ方が水中が見やすいので有利なこともある。



↑水面下30cmくらいを狙う時は中段に構える。このポジションは魚が掛かるときロッドでは吸収しにくいので、ラインを弛ませながら巻いてくることにより、魚が喰ったときに掛かる「間」を作ることができる。



↑表層～水面下10cmを狙うときは、ロッドを上段に構える。ロッドに適度な角度が付いているので、魚が掛かったときにティップがオートマチックに入ってくる。

## 座って行うポジショニング



↑釣りの座って高いポジションに構える釣り方。必ずしもラインは弛ませ気味に巻いてくる。スロークラランク共に喰わせにくい最終手段のスタイル。



↑潜行深度+αを落としたいときや、ボトムノックさせるときにはロッドティップを水中に入れてしまえば、ルアーの潜行レンジが下げられるのだ。



↑ルアーの潜行深度をいちばん出しやすいのは、座ってほぼ水平に構えたこの状態。このときもラインは張らずに適度なみを持たせるように釣ろう。



Verification

最速で釣るための  
**検証**



新さんがまず初めに入ったのは1号池のインレット側。  
「今朝は攪拌器が回っていないので、今日はここのインレット日陰側から始めてみます」

まず初めは表層の反応を見るためにバーブルからキャスト。着水後、何度も魚がルアーを見にやってくるが、直前で見切って戻ってしまふ。

「0cmのリアクションの釣りですが、釣れると思っただけですが、そう甘くはないですね。魚からの反応はいいのですが、何度追ってきても口を使いません。追っても口を使わないパターンは正しいパターンではないので、深追いせず切り捨てます」

しかし、今の時間はダメでしたが、0cmの釣りは外せません。日中の虫や風などによっても突然釣れだすので、状況を見て入れてみましょう」ということで、ド表層は早めに見切って、ザンム30Lを投入。

「これは水面直下に特化したクラックです。ロッドポジションを替えるながら探ってみます」

上から細かくレンジを変えていくと、どのレンジでも一定の反応は見られるが、口を使つ魚は少なく、喰ってきててもショートバイトばかり。

「今日は予想以上に手強いですね」それもそのはず、取材前日から全

国的に季節外れの猛暑が到来し、この日の最高気温は28℃！ いかにも伏流水で暑さに強い朝霞とはいえ、5月にこの気温では魚も参るだろう。「こういう状況のときはシルエットが小さい方がいいと思うので、ミニスベックに替えてみましょう」すると、ポツポツとだが魚が口をしっかりと使い始めた。

「暑いときはやはりシルエットを落とすのが有効ですね。試しにマイクロスプーンを投げてみたら、こちらはバンバン釣れますよ！」

しかし、今回はクラックの話というところで、今度はハイサイドヘチエレンジ。こういう状況のときはクラックは諦めるべきなのでしょうか？

「たぶんボトムノックなら釣れると思います。試しにやってみましょう」ハイサイドのボトムノックに切り替えるとガツリヒット！  
「ここまでタフコンだと、目に見える反応に引張られてしまいがちですが、大きくパターンを変えてあげた方が釣果に繋がりますね！」  
タフな中でいち早く釣れるパターンを見つけたすためには、仮説と検証を意識した、日頃からの練習の積み重ねが重要だ。



↑普段ならハデな色がいいのですが、この日はピンク系はダメでしたね。シルエットも小さめ、アクションもロールではなくワイドがよかったです。あとは普段あまりやらない極端な引き方もやってみましょう！

本当に渋くなったときは、  
極端なパターンへ  
振ってみる!

今日のような、気象条件などでタフな状況になっていて魚が口を使ってくれないときには、クラックのボトムノックや表層の超デッドスローなど、極端なパターンへ振ると解決の糸口が見えることがあります。思いきって大胆なパターンをやってみるといいですね!



↑この日の切り札となったのは、ハイサイドのボトムノックと、表層での普段やらないくらい超デッドスロー。タフコンで手詰まりになったときにはぜひ試してみてください。



◆新さんのタックル  
【クラック1】レッドタキオン AGS モデル (プロト) + ウェーブWハンドル 70mm + ステラ 1000PGS (スプール C2000) + ライン ヤマトヨファメルエリアフロロ 1.5Lb  
【クラック2】レッドタキオン + ウェーブWハンドル 80mm + ステラ 1000PGS (スプール C2000) + ライン ヤマトヨファメルエリアフロロ 1.7Lb  
【クラック3 (ライトウエイト用)】スーパーアンダーゼロ + ウェーブWハンドル 70mm + ニューイグジスト + ライン ヤマトヨファメルエリアフロロ 1.5Lb  
【マイクロスプーン / マイクロクラック用】 サイトック AGS (プロト) + MP7 シングルハンドル + イグジストスティーズ カスタム + ライン ヤマトヨファメルエリアフロロ 1.7Lb



今月の  
ひと言

ARATA'S VOICE